

リハビリテーション技術全書 ＜全一冊＞

（服部 一郎，細川 忠義，和才 嘉昭 著）

日頃敬愛申しあげている服部，細川，和才三先生の共著になる膨大なリハビリテーション技術全書なる名著が，このたび上梓され，その真価を世に問うに至ったことは，この上ない慶びとするものである．今さら著者の三先生については説明するまでもなく，本邦リハビリテーション医学の事実上の開拓者，創始者であり，生みの苦しみを嘗められた斯界の第一人者である．

特に，本書が我が国独自の立場をふまえた上で，著者らの独創的な理論と技術を展開された点は，類書に見ない点であり，国情に則したりハビリテーションの書として高く評価されよう．

本書の成り立ちは，リハビリテーションの基礎論にはじまり，理学療法，作業療法の総説と，その具体的方法，リハビリテーションの実地応用論から疾患別リハビリテーションプログラムの組みかたに及ぶ 11 部の大項目にわたり詳細かつ具体性を極めたものである．

基礎論においては，医学的リハビリテーション実施に基本的に必要な「評価，目標設定，プログラム実施，再評価，転機設定」の各項目にふれ，具体的に評価についての症例検査表を示し実地に役立つような考慮が払われている．

各種障害評価テストでも，粗大運動機能テスト，MFT など著者らの工夫による簡易法の記載があり，ADL テストでも和室生活動作を加え，運動年齢テストや失語症テストに言及し，すべてを網羅している．ことにこのうち「予後を類推できるテスト」の項目は，服部先生の独創的なものであり実際に機能的な予後の判定に極めて有効な方法である．次に医学的リハビリテーションの運

営と管理については，治療手段としての医学的リハビリテーションにつき述べ，そのチームの組み方，各スタッフの役割に及び本邦リハビリテーション医学の進歩に不可欠な大学におけるリハビリ講座の設定と医学生教育の必要性を強調し，パラメディカルスタッフと協調し，指導する卒後教育としてのリハビリテーション専門医の育成を指摘している．

第 2 部から第 9 部までは，理学療法と作業療法すなわち医学的リハビリテーションを行なう有力な 2 大武器についての基本的な原理，応用につき述べ，温熱療法ではペロイド療法にかなり紙数がさかれているのも本書の特徴である．理学療法では，処方する立場から温熱療法，運動療法と特殊な効果を期待する療法の三つにわけて記載され，後者では物理療法といわれてきた超音波，低周波，紫外線療法，イオン導入法に，牽引療法も加え，マッサージ療法にふれている．いずれの記載も図説を豊富にし，読者の理解の便をはかり使用上の準備，患者への指導のしかた，注意など，心にくいはかり至れり尽せりの親切な指導書であることも特筆に値する．運動療法に関してはまず共用用具と，装具，義肢，松葉杖，車椅子などの個人用具にわけ自助具にも及んでいる．特に義肢装具に関する項目は，複雑多岐にわたる項目を，図説により要領よくまとめられ教えられる所の多い章である．治療目的別の運動療法テクニックについては，筋弛緩，体力回復訓練，関節可動域回復訓練，姿勢回復訓練，協調性回復訓練に複合基本（機能統合）動作訓練，ADL 訓練に及びいずれも示唆に富むものである．ADL 訓練と自助具については，リハビリテーションの目標達成の最後

の仕上げとして重要な位置を占めるもので，著者らの長年の経験を基礎にした実用的な創意工夫がいたる所に盛りこまれ，日本式生活に適合した指導といえよう．第 8 部，第 9 部の作業療法は，一般医師には，取りつきにくい項目であるが，和才先生の独壇場として，平易にかつ理論から実際にわたる行き届いた記載で裨益する所の多い項目である．

第 10 部のリハビリテーション実地応用論は，本書の掉尾を飾るものであり，リハビリテーションの運営にあたって誰しも遭遇し，その解決に頭を悩ます問題について具体的，即物的に記載され，本書のエッセンスと言っても過言ではなからう．そのうちでも「問題のある症例の取り扱い方」や「リスクの管理」の項目はいかに著者らが障害者のリハビリテーションに真剣にとり組み，努力を続けてこられたかを如実に示すもので，頭の下がる思いがする．

第 11 部は，目前の患者に対し「いつ」「なにを」「どうするか」という「疾患別」のリハビリテーションプログラムの組みかたで，リハビリテーションの対象となる片麻痺，対麻痺，四肢麻痺，ジストロフィー，頸肩腕障害，腰背痛，関節疾患，虚血性心疾患，末梢循環不全，呼吸器疾患，切断などの重要疾患が網羅されており，著者らの該博な知識と温い人柄のにじみ出た部分でもある．

以上本書の内容の概略にふれたが，本書は味わえば味わう程ききぬ啓示を読者に与えるものであり，リハビリテーションにたずさわる医師にも看護婦にも，又理学療法士，作業療法士やその他のパラメディカルスタッフにも広く読まれて障害者の社会復帰に資するものであり，座右のバイブルとして，江湖の諸賢に心からお薦めする次第である．

（日本医大整形外科 石田 肇）

（B 5，頁 939，¥ 22,000，〒 300）